



参拝待つ方々(神門前)



# 宗 像

## 2月祭事暦

毎月1・15日 つきなみ 月次祭

午前10時～  
高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
引き続き  
宗像護国神社  
月命日祭(1日)  
巡 拜(15日)

午前11時～  
総社祭  
浦安舞奉奏(1日)  
豊栄舞奉奏(15日)

### 3日 節分祭

午前10時～  
於=祈願殿  
※祭典後豆打ち式

### 11日 建国祭

午前11時～

## 平成十九年正月

## 三が日で65万人が参拝

年始の天候が二転三転する、週間予報に気をもみながら迎えた平成十九年も、絶好の参拝日和に恵まれ、三が日は近年にない大勢の参拝者で境内は人波に溢れた。

今年の師走は、暖かい日が続いたおかげで正月準備も順調に進み、二十九日には地元田島地区の氏子総代・協力会の御奉仕により境内各所の装いも整えられ、大晦日には年越しの大祓式・除夜祭を斎行、平成十八年も恙無く幕を閉じた。



年明け直後の拝殿前

ご参拝の皆様方が敬虔な祈りを捧げられる本殿前の建物(拜殿)に「奉助天孫而 为天孫所祭」と記された額が掲示されている。宗像大神がこの地にお鎮まりになるにあたり、天照坐皇大御神より賜った神勅である▼神勅とは天照坐皇大御神のみ教えであり、宗像大神に「歴代の皇室をお助けすると共に歴代の皇室から厚いお祭りを受けられよ」と示されたのである。宗像大神を崇敬される皆様方はもとより国民に「皇室の繁栄を祈ることが、国家、国民の繁栄に通ずるみちである」と明示されたのである▼この精神を「互譲互助」と称する。お互いに譲り合い、助け合う気持ちを持つことが人間としての基本であることを示している。人としての本質を喪失したかのような事件、事象の報道を耳にする昨今、その原因を社会情勢や、教育行政に起因するとの声を聞くが、果たしてそれはかりだろうか？

▼自然と共生し、神の加護を受け、畏敬と感謝の念をこくあたりまえのこととして日々を送る、この姿勢こそ人としての本来の姿であるはずでは。三つ子の魂百までもではないが、物心つくまでに、人として犯してはならないこと、踏み行わべき道を理屈抜きに当然のこととして教える、家庭での躾こそ肝要のはず。宗像大神のみ教えも日本人として、民俗としての原点である。



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31  
電話 福岡(092)651-9456番

井筒 本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入  
電話 (075)341-3341(代)～4番  
(075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



れを惜しみつつも、今年こそいい年であるようにと、期待に胸を膨らませた人々が参集。同十一時前には祈願殿前の第一駐車場をはじめ、第二・第三駐車場と三箇所の駐車場は満車となった。

神門前では輝ける新年の到来を今や遅しと待ちわびる参拜者がライトアップされた心字池の太鼓橋から長蛇の列を

なした。

平成十九年元日午前零時、新春の到来を告げる太鼓の音と共に開門、一瞬にして御神前は参拜者で埋め尽くされた。今年一年も良き年であるようにと手を合わせ祈る参拜者の姿は、昨今の世相を反映してか、近年になく活気に満ち溢れており、拍手の音が境内に鳴り響いていた。神札・御

守や籤矢・破魔矢・福迎え等の縁起守を授与する各授与所、福みくじ授与所には次から次へと参拜者が押し寄せ、例年にも増す賑わいであった。また神酒授与所では、交通安全の神様として崇敬されており、大きな社会問題でもある飲酒運転撲滅にと、神酒を清酒より甘酒(ノンアルコール)にと変更させていただいたにもか

かわらず、大勢の人々が訪れ御奉仕をされた総代・協力会の方は甘

酒注ぎに追われていた。

また、本殿での参拝をすまされると、宗像大神降臨の地と伝えられる高宮祭場を参拝される方々も多く、古来よりの荘厳な神域に、将に「神様のいます杜」として深い感銘を受けているようであった。

さらに家庭で或は車輦にお祀りされ、一年間御守護頂いた古い神札や御守を納める古札授与所では、巫女が丁寧に受け取る姿に、改めて神札、御守の意義と尊厳、感謝の心を感じているようであった。一方、新年の祈願祭も迎春



と同時に斎行され、本殿では恒例により九州旅客鉄道株式会社代表取締役社長石原進氏以下幹部社員六十名参列のもと新年一番祈願祭を斎行、交通安全、業務安全・繁栄、海上安全が祈念された。

また儀式殿では家内安全、無病息災、商売繁盛を、祈願殿では本年一年の交通安全を願う人々の祈願祭が執り行われ、祈願者へ大神様の御加護を賜るべく祈りが捧げられた。

新春を寿ぐ祭典は、午前七時総社地主祭、



同日九時歳旦祭を斎行。皇室の御安泰、国家の平穏と隆昌、氏子崇敬者・国民を守護し給い更なる幸福と繁栄を祈念した。二日目には新年祭を、三日目には元始祭を斎行し、今年一年間が素晴らしい年となるようにと願って奉仕した。

本年は暖冬と好天に恵まれ、元日は終日参拝者の波が途切れる事がなく続き、二日未明に亘るまで混雑した。二日午前中に小雨がパラつき、出足が鈍ったものの、三日は暖かい晴天となり近年にない大勢の方々には御参拝頂いた。四日以降も仕事始めとあつて、会社や各種団体の参拝が続いた。七、八日の連休には成人を迎えた若人が晴れ着姿で参拝、彩を添え境内も一層華やいた雰囲気となった。

三が日合計で六十五万人、参拝車輛十六万二千台という昨年を上回る、過去最高の初詣参拝者を数えた本年、大きな障害や事故もなく皆様方にご参詣頂いたのも、雑踏警備に参拝車輛誘導にと御配慮、御尽力頂いた宗像警察署並びに宗像市消防団長以下幹部役員と地元第十一分団役員の皆様方更には、年末・年始から十

日までの長期間御奉仕を頂いた地元総代・協力会の皆様方の御支援、御協力の賜物と厚く感謝申し上げます。

**禰宜に渡邊権禰宜**

昭和五十五年三月宗像大社に奉職。同五十七年に権禰宜となり、平成十一年神職身分二級、同年庶務課長を経て、この度(神社本庁辞令十二月十五日付)禰宜に昇進しました。

現在経理部長、宮司兼務社の管理主任、式内社頭彰会九州支部事務局主任を務める。



禰宜 渡邊 秀丸



円滑な参拝の為、本年より拝殿前を整備しました

# 年越しの大祓神事・除夜祭

大晦日午後三時より、神門前で年越しの大祓神事が、続いて本殿で除夜祭が斎行され新年を清々しい気持ちで迎えようという多くの参拝者が参列し斎行された。

大祓式は、七月三十一日とこの十二月三十一日の年二回行われているが、七月を災難消除、健康、農作物の豊作を祈る「夏越の大祓式」、一年の罪・穢を祓い、清々しい気持ちで新年を迎えようとい



う十二月を『師走の大祓式』と呼んでいる。定刻、新



年を迎える準備が整った境内に参拝者が続々と詰め掛け、高向権宮司が「大祓詞」を奏上、続いて参列者各人「切麻」で祓い、「祓物」に息吹を吹きかけて切り裂き罪・穢を祓い清めた。

引き続き、本殿で除夜祭が執り行われ、今年一年戴いた宗像大神の御加護に感謝し、皇室・国家の繁栄、世界の恒久平和、氏子崇敬者の皆様方が清々しく新年を迎えられることを祈念し、平成十八年の諸祭儀は全て滞り無く終了、神門は閉じられた。

# 松岡農林水産大臣参拝

年の瀬も押し迫った十二月二十七日正午過ぎ、安倍新内閣の農林水産大臣を務める松岡利勝氏が参拝された。

前日夕刻急遽連絡があり、当日は公務の合間を縫って秘書官・福岡県警・SPの警護も厳重に到着。早速辺津宮拝殿に昇殿し大願成就祈願祭が執り行われた。

祭典後、高向権宮司が境内を案内、繁多の中時間を割いての念願の参拝に僅かの時間ではあったが、当大社由緒の説明を受け感銘の御様子であった。

大臣は、昭和二十年熊本県阿蘇郡阿蘇町のお生まれ、県立済々黉より鳥取大学農学部に進み、農林水産省へ入省するも林野庁広報官を最後に退官、平成二年故郷の熊本県より衆議院議員総選挙に挑戦し初当選される。

以後、農林水産政務次官、衆議院農林水産常任委員長、農林水産副大臣などの役職を歴任。昨年九月の安倍新内閣誕生にも貢献し、その高い見識と豊富な経験を農林水産行政にと請われ入閣された。

松岡大臣の今後益々の御活躍をお祈り申し上げます。



# 献米奉告祭齋行

正月の賑わいも落ち着きを見せ始めた一月十三日、宗像・福津両市内の氏子総代多数が参列し献米奉告祭が齋行された。この神事は、氏子の皆様から寄せられた新穀を御神前に献上し、昨年の収穫を感謝すると共に、今年の五穀豊穡、無病息災、一年の平穏を祈る祭典で宗像大社氏子会員総出の神事である。

祭典では福津市の中野政登氏が、氏子会を代表し「氏子奉幣使」として御奉仕された。前日から当大社に齋泊精進齋をし、齋服を着装して祭典に臨まれ、無事に氏子奉幣詞を宗像大神の御前で奏上、大役を見事に果たされた。

祭典終了後には、氏子会役員を永年お勤めいただいた方(十人以上)の表彰式が行われ、左記の四名の方々に神島宮司より感謝状と記念品が贈呈され、参列した氏子会同志から温かい祝福を受けた。

表彰式後には、清明殿で「鏡開き」が行われ、一同新しい一年を清々しく過ごすことができること大社を後にした。

尚、ご奉納いただいた献米は、日々の日供祭をはじめ諸祭典の神饌として御供えし、皆様方の安全と繁栄を御祈念致しております。



氏子奉幣使を御奉仕された中野政登氏(右)

## 平成十九年 献米奉告祭

氏子奉幣使

中野政登 (福津市勝浦)

宗像大社氏子会

永年勤続者表彰 (順不同敬称略)

原利秋 (福津市東福岡)

中原守 ( " )

竹添康彦 ( " 若木台)

中村春夫 (宗像市鐘崎)

福岡清美 ( " 大島)

# 大島 中津宮の正月

年末年始は暖冬となり正月を迎えるにあたり、沖中両宮奉賛会、翼賛会のご奉仕により順調に諸準備が整えられた。

正月午前零時、太鼓の合図と共に神門が開かれると、多くの参拝者が神前に進み祈りが捧げられた。

一方、境内では大島の春日丸組・宮地丸組・沖栄水産の巻網船団よりブリのご協賛

を賜り、沖中両宮奉賛会のご奉仕で開運ブリ鍋汁が無料で振る舞われると共に、宗像市の城山家具・J.A宗像大島支店のご協賛を受け、翼賛会のご奉仕のもと「新春福みくじ」も催され、本年の福を授かるうと多くの参拝者が福みくじを受け、約二時間程で殆んどのみくじを授与した。

一日の朝は風もなく、宗像の四塚連山より初日の出が昇る中で午前六時半より地主祭を齋行。引き続き午前七時より元旦祭が齋行され、今年一年の皇室のご安泰と国民の平穏・国家の繁栄が祈られた。

翌日の二日には、大島出身者を対象とした成人祭が、午前十時より行なわれた。毎年大島の成人祭は、島を離れた若人を考慮して、二日に成人式を行なうのが慣わしになっており、



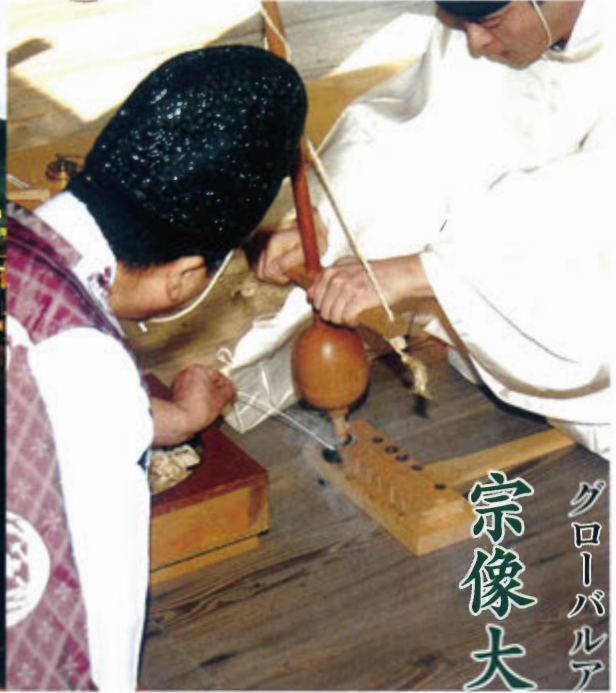
日本で一番はやい大島の成人式

本年は八名が成人式を迎え、懐かしい顔合わせに話もはずんだ。併せて当日は三十三歳、四十一歳、四十四歳の厄除・晴厄年の祈願も同級生が集い、午前中を中心に賑わいを見せた。

明けて三日には午前十一時より元始祭並びに大漁祈願祭が齋行され、宗像漁協組合長山口国一氏を始め漁業関係者が多数参列して、今年の上安全と豊漁が祈念された。

このようにして今年の正月三ケ日は天候にも恵まれ、地元の皆様の多大なるご協力により盛大に無事終了することが出来ました事を感謝申し上げます。





グローバルアリーナ・キャンドルナイトに  
宗像大社の斎火を使用

～宗像の夜に5,000個のキャンドルが灯る～



十二月二十三日天長祭後の午後一時、グローバルアリーナの近藤勇社長ら関係者が参列の下、拜殿で採火式が行われ清浄な斎火が提供された。

宗像市のスポーツ宿泊施設「グローバルアリーナ」(近藤勇社長)では、五年前より、クリスマスシーズンに合わせ「キャンドルナイト」というイベントを開催してきたが、その中で使う燈火を今年是非宗像大社から賜りたいとの申し出を受



け、内部で検討してきた。グローバルアリーナより、今後さらに宗像市の祭典として、より充実したものへと発展させたい。そのためにも宗像の象徴である当大社での採火式をとの強い要望を受け、協力することとなった。

当日は、拜殿で正式参拝が行われた後、神職が火鑽具を使って火を起こし始めた。木と木の摩擦で煙が立ち込めると、やがてかすかに点る火種が現れ、鈍くずに火が移された。そして、燃える炎からかさずロウソクに火をとり、持ち帰る運びとなった。



このイベントは二十三、二十五日の三日間、いづれも午後五時三〇分から行われた。実際に伺ってみたが、雰囲気はクリスマスであるのに、宗教的なところはなく、津屋崎、北九州の少年少女合唱団によるナイトコンサート、サンタクロースとの記念撮影、しまじろうの映画上映会、各食事処でのクリスマスメニューなど、様々な楽しめるイベントが行われており、清浄な火を灯し宗像市民が集うイベントとなっていた。

火の灯された五〇〇〇個のキャンドルは、陽が暮れて辺りが暗くなるほどに幻想的な雰囲気を醸し出し、多くの家族連れを中心とした参加者は宗像の聖夜に酔いしれていた。

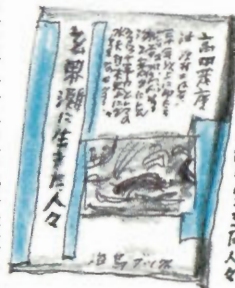
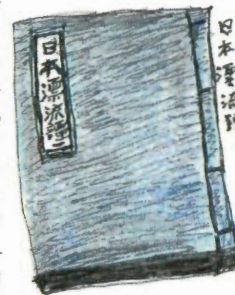
(続)

# 浜の寄物

211



いしい だし



糸島郡志摩町に行くのに、福岡市今津から宮浦・西浦の方へ抜けて、糸島半島をぐるっとまわった。途中の唐泊(韓泊)は、現在、福岡市になっていくがかつては、志摩郡であった。この福岡市西部は、残島、今津、浜崎宮浦、唐泊と、「五ヶ浦廻船」として、日本でも有数の海運業の盛んなところであった。廻船は遠く蝦夷地から

本州一円を米や材木等を運搬していたのである。しかし行動範囲も広く、また太平洋側(東廻船路・江戸上方航路)が航路であったので、海難事故にも遭い東南アジアや太平洋の島に漂着したり、漂流も多い。

五廻船でも一七六二(宝暦十二年)、筑前唐泊の本宮丸はフィリピン・ルソン島へ漂着、六三年には残島船村丸がこれもルソン島に漂着、偶然にもソクボウというところで一緒になり、中国を経由し長崎へ送還されている。

同じ頃、唐泊の伊勢丸がポルネオ(フィリピンとも)に漂着、乗員二十名で、日本へ帰還できたのは孫七(孫太郎)ただ一人だった。

筑前五ヶ浦廻船については、高田茂廣氏の研究があり、また氏はなんと、ここで述べる伊勢の孫七を追って、カリマンタン(旧ポルネオ)のパン



今津、むさうの山は今山

ジャルマシンまで行っている。明治二五(一八九二)年に発行された石井研堂の「日本漂流譚」の第五譚は「筑前の人保爾尼に漂着し萬死を出て故郷に帰る」である。ここでは研堂、荒川秀俊(異国漂流物語)高田茂廣(玄界灘に生きた人々)の著書等を参考に、孫七の漂流を見てみよう。

研堂は「筑前国志摩郡唐泊浦に伊勢丸とて、千六百石積の船ありて、船頭を十(重)右衛門といひしが、水夫共二十人、南海に吹流され、乗組残らず死して、唯孫七といふ水夫一人のみ、九年の艱苦を経て、



廻船

明和七年(一七七〇)庚寅八月廿六日、唐泊の故郷に帰りけり」から漂流譚ははじまる。伊勢の船頭十(重)右衛門、かじ役仁兵衛、金七をはじめ、水夫をふくめて計二十名は、明和元年(一七六四)十月十七日に、奥州からの帰途仙台領の箒の浦を出帆して江戸にお

かつた。ところが十九日の夜頃から雪まじりの雨が降り、大西風が吹きはじめた。全員総出で働いたが、船は荒波に翻弄され続け、転覆の危機も出てきた。一同「天を拝し神仏を念じ各々其髻をきり、船頭十右衛門が腰刀に添へ海に投



廻船

入し祈請するより外他なし」(南海紀聞)

福津市在自の金刀比羅神社(大澄光信宮司)には文政十一(二八二八)年の難船絵馬には、髻を切り、帆柱にしがみつきの漂っているのが描かれている。また大正十一(一九二二)年奉納の絵馬は玄界灘での遭難の絵馬で、大小の波が画面いっぱい描かれ「海の恐怖」があらわされている。共に遭難絵馬の傑作であり、昨年の九州国立博物館の特別展「海の神々」で展示され、ご記憶の方も多いのではなからうか。



孫七の漂流

# 第五四六回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

宗像市 田野 森 甲子  
 棘の葉に守られて咲く柊の花は香れり真冬の風に  
 丁寧に詠はれていて申分は無いが、これに作者の影が加われば猶更しい。

宗像市 日の里 大和 美由紀  
 冬晴れの山にふわりと紅彩のパラグライダーゆるやかに飛ぶ  
 いい作品。ただ「ふわり」と「ゆるやか」は同意語なので結句は「あらわれて飛ぶ」とする。

宗像市 池田 森 龍子  
 その時まで元気で居たいと常に言ふ老母健やかに誕生日迎ふ  
 長寿の母を称える一首。上句の破調を「終命の日まで元気で居たいと言ふ」とする法もある。

宗像市 大井 木原 房子  
 深々と落葉つみたる谷の怪すべらじと来て千両手折る  
 足許に注意しながらの正月用の千両取りなのだろう。  
 二句は「落葉のつもる」の方がいいのでは。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子  
 蛸焼を焼く青年と買う少年語り合いつつ出来上り待つ  
 青年と少年の会話が聞えてきそうな、ほほえましい一首である。

福岡市 南区 井田 有久衣  
 腰痛め身動きならず終日を読書で過ごす炬燵の中にて  
 腰痛はきつい、しかし好きな読書の時間を与えてくれた。ご大事に。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦  
 先住の鴉と同じ電線にかささぎ止まり争うことなし  
 「争うことなし」に発見があり面白い。ただ先住は、住んでいるのではないので「二羽ある」「大いなる」などを考えて欲しい。

福津市 若木台 野間 精一  
 一日に干したる白菜を取り込めば小さき蟻のひとつつききぬ  
 心こまやかな歌だが、上句の説明調の破調は「一日に干し終りたる白菜に」と整理出来るのでは。

福津市 中央 池浦 千鶴子  
 夫と娘と忘年会とてひとり居の夕餉の時間早やすぎてをり  
 たまたまながら一人の夕餉の寂しさ空しさが詠はれているが下句は「夕餉のは早く終わってしまふ」の方が一層すつきりするのでは。

宗像市 田久 巻 桔梗  
 妣、兄弟、妻子の顔をつばらかに想ひをはりて合掌を解く  
 妣は亡き母のことなので仏を拝むのはいいが、現在するであろう兄弟、妻子との整合性はどうか、私には疑問。

福岡市 西区 安永 久子  
 日進月歩自癒力進歩めざましき前むき生きるすべ体感す  
 医療の進歩により生きる気力を得た歌であるう。三句は「めざましき」の連体形でなく「めざましく」と連用形にしたい。

うきは市 浮羽町 向 則正  
 形見だと姉に貰ひし萩茶碗箱より出でて惚びてゐたり  
 原作のままでは、茶碗が箱から出てきて姉を惚んでいることになる。三句以下を「萩焼の茶碗を箱より取り出し惚ぶ」とすべきである。

北九州市 八幡 竹内 結子  
 バレンタイン告白すると意気込んで結局渡せずチョコ冷凍  
 「チョコレートと冷凍をかけているのがすばらしい。作者のピュアな心があらはれている。の自歌自釈に加えることは無いが三句は意気込むも結句はチョコ冷凍すと直す。

宗像市 日の里 佐藤 純一  
 ミニスカに風天神は吹きをりてパンチラチラリふともも菩薩  
 前号と批評は同じである、読む人に不快感を与えるのはまずいので他のものを詠って欲しい。

秋の色深き潮なり野母崎の  
 蒲鉾工場のうらはは直ぐ海  
 柱時計一つに目覚し二つ置く  
 わが部屋ながら時間の罅  
 ドア開けて出づれば訪れ人のこと  
 柿の落葉のまろび近づく



# 第五二二回 俳句作品集

宗像市 花田いつ枝  
 着ぶくれの気後れ少し祝膳  
 宗像市 東郷 田中 憲象  
 数のほど入れてある筈おでん種

## 編集後記

一月十五日、歌会始が行われ、二万五千首の中から入選した十名の作品が披露されたと報じられました。御題は「月」で、皇后陛下による「年ごと」に月の在りどを確かむる。歳旦祭に君を送りても御披露された「歳旦祭」といいます。天皇陛下には午前五時半に御所で四方拝を、続いて宮中賢所(本年は耐震工事中に付仮殿)で歳旦祭を御親祭遊ばされました。皇室護の御神勅をいただく当大社でも、例年元日午前九時に歳旦祭が、総社をはじめ高宮、第二宮、第三宮で斎行され、今年も小生も何年か振りながら、高宮地主祭と高宮祭に御奉仕することが出来ました。▼年明けから初詣参拝の皆様をお迎えしており、正直ホーッとすると時もありましたが、奉仕を終え高宮から下つてくる頃には、晴天の空と同様に清々しい気持ちで一杯でした。▼現在、高宮祭場が文化庁・国土交通省の「美しい日本の歴史的風土百選」に申請中、さらに世界遺産もこの号が出る頃には暫定リスト入りできるか、どうかも判明しているはず。今年もお宮と宗像の話題を豊富にお伝えしますので、よろしくお願ひ申し上げます。(M.O.)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
 電話 0940-62-1311(代)  
 発行人 高向正秀  
 編集人 大塚宗延  
 制作 ゼネラルアサヒ  
 印刷 ゼネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円